

## NEWS RELEASE

### 東京新聞で紹介されました

コラム「この人」で、弊社会長の石渡光一が紹介されました

ホッピー誕生70年 メーカー会長 <sup>いしわた</sup>石渡 <sup>こういち</sup>光一さん(82)

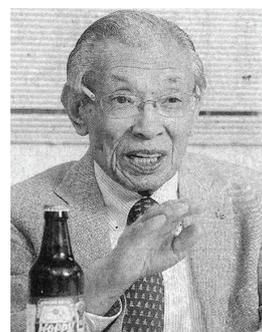
東京の居酒屋ではすっかり定番のビールテイスト飲料「ホッピー」が今年で誕生70年を迎える。そのメーカー「ホッピービバレッジ」（東京都港区赤坂）の会長として「お金がない時にホッピーで酔っぱらう。そんなお助け飲料の役割を果たせたのでは」と振り返る。

ホッピーは、1981年に86歳で亡くなった父秀さんが開発した赤坂生まれの飲料。48年に販売を始め、新橋などの闇市で高値のビールに代わるノ

ンアルコールビールとして人気を呼んだ。捨ててあった進駐軍のビールの空き瓶を利用。次第に焼酎で割って飲む習慣が定着した。

ガラス瓶で販売し、空き瓶を回収して再利用することもあり、消費地の大半は東京周辺だが、使い切り瓶での通信販売も行う。アルコール度数0.8%の清涼飲料水で、ビールに比べ苦味が薄いという特徴を「欠点だと思っていた」が、プリン体がゼロ、低カロリー・低糖質の健康志向と評

「この人」



判に。「苦味の薄さで逆に女性に受けた」と喜ぶ。

赤坂生まれの赤坂育ち。経営は現社長で一人娘の美奈さんに任せ、赤坂の町おこしに熱心だ。

(加藤行平)

2018.5.15

2018年5月15日(火)発行の東京新聞コラム「この人」に弊社会長の石渡光一が紹介されました。

記事では、弊社会長が今年発売70周年のホッピーの誕生秘話を語り、これまでの軌跡を振り返っています。また、赤坂の町おこしに尽力していることなどが紹介されました。

ご不明な点、ご質問がございましたら、HOPPY未来開発課までお問い合わせください。

お問い合わせ先フリーダイヤル: 0120-5137-88 受付時間: 8:45~18:00(平日)